

だいいこく通信 第五十九号 「秋の号」

いあつちっ

今年の夏は本当に長く、暑く、厳しいものでした。十月二十四日は今年百五十三回目、今月十四回目の夏日になりました。これは一八七五年に気象統計が始まって以来、年間、月別ともに最多記録を更新したそうです。かと思えば、今年の冬は寒さが厳しいとの予測が出ているとのこと。くれぐれもご体調に気をつけてお過ごしくださいませ。

社報「だいいこく通信」第五十九号をお届けします。

今回の内容は、当神社の最新情報をお伝えする「大國神社の今」、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。



大國神社の今

○第十回だいいこく落語会を開催しました



去る十月十二日、当神社拜殿におきまして、十回目となるだいいこく落語会を開催しました。

おなじみ古今亭菊之丞師匠をお迎えしての独演会で、「ねずみ」と「明鳥」の二席。しばし江戸情緒に浸ることができました。菊之丞師匠、お越しくくださった皆様、ありがとうございます。ありがとうございました。

だいいこく落語会は今後も継続していきたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

お宮あれこれ「参る」の話



赤ちゃんが生まれると、「お宮参り」をします。また、昔はお宮で願掛けをする時、「お百度参り」をする習慣がありました。このように、お宮に参拝することを「参る」と言います。今回はこの「参る」についてお話しいたしましょう。

「参る」の語源について、『日本国語大辞典』では「「まい(参)」に「いる(入)」の付いた「まいいる」の変化したもので、貴人の居所には行って行くのが原義か」と記しています。ここで出てくる「まい」というのはどういう言葉なのでしょう。

これは「まいる」の元の形で、「貴所・貴人のもとへ行く」という意味ですが、文法的には上一段活用の動詞とされています。

す。このことばを「まいる(古)」とあらわします。「まいる(古)」の文献にあらわれた例は次のようなものです。

「この御足跡を尋ね求めて善き人の坐す国には我も麻胃(マヅ)てむ諸々を率て」(仏足石歌〔753頃〕)

「玉梓の道に出で立ち 岩根ふみ 山越え野行き 都辺に 末為(マヅ)し我が背を(大伴家持)」(万葉集一八・四一六) どちらも大変古い例です。

「まいる(古)」に「入る(いる)」がついて「まいいる」という形ができ、その後「い」が一つ落ちて「まいる」となりました。同じ形に戻っているように見えますが、新しくできた「まいる」は文法的には四段活用の動詞で、「まいる(古)」とは活用の種類が違っていました。ややこしくて恐縮ですが、新しいほうの「まいる」を「まいる(新)」とあらわします。

「まいる(新)」は、先ほど引用した辞典の説明の通り、「まいる(古)」+「入る(いる)」がもとの形で、「身分の高い人のいらっしゃるところに入る」というのが本来の意味です。そこから、尊い神仏のいらっしゃるお宮やお寺に参拝する意味をあらわすようになったのでしょう。この、現代語に繋がる「神仏に詣でる。参拝する」という意味では、平安時代ごろに使われはじめました。具体的な例を見てみましょう。

「若う侍りける時は、志賀につねにまうでけるを、年老いてはまいり侍らざりけるにまいり侍りて」(後撰和歌集〔951〕953頃) 雑二・一一三五・詞書)

「かの君なん、いかでかの御墓にだにまいらんとたまふなる」(源氏物語〔1001〕14頃) 宿木)

ところで、「まいる」は「降参する、負ける」という意味で使われることがよくあります。将棋の対局でも、自分の敗北を

認める時に「まいりました」と頭を下げます。この使い方も、おそらく元の「身分の高い人のいらっしやるところに入る」という意味から生じたものでしょう。相手を自分よりも立場が上だと認めるところから、「負けを認める」という意味合いに変わったのだと考えられます。

「まいる」はこのほかにもさまざまな意味をあらわしました。その一つに、「食べる」「飲む」の尊敬語、つまり「召し上がる」という意味がありました。この意味の「まいる」に使役（「～させる」）の意味の助動詞「す」をつけて「まいらす」という表現ができました。「召し上がらせる」ということになるので、そこから、「さしあげる」という意味で使われるようになりました。「まいらす」はその後意味が変化し、「し申し上げる」という意味になります。具体的な「さしあげる」という意味が薄れて、動作をする人を低め、相手を高める言い方になっています。「まいらす」はそのあと、意味の変化がさらに進み、話を聞いている相手に対して丁寧な態度を示す言葉になりました。そして、最終的に、現代でも使われている丁寧語の「ます」になりました。意味の変化と同時に、次のように形が変わりました。

まいらす↓まいらする↓まらす↓まつする↓ますする
↓ます

現代語の「～ます」という丁寧な言い方の中には、もともと「まいる」ということばが含まれていました。

さて、「参拝する」という意味をあらわすもう一つのことばとして「初詣で」などにみられる「もうでる」があります。実は、「もうでる」も「まいる（古）」がもとになったことばです。次のように形が変わっていったとされています。

まい+いづ↓まいづ↓まうづ↓まうでる

こんなふうに「まいる」ということばは、古い時代からさまざまな意味を持ち、形をいろいろに変えながら現代まで伝わっています。古来、わたくしたちの生活の中に、神様のもとに参拝することが溶け込んでいたことをあらわしていると言えるでしょう。

参考文献 『ジャパンナレッジ利用』

『日本国語大辞典』『日本大百科全書』『世界大百科事典』



祭礼・祈禱などのご案内

○次回甲子祭

令和六年十二月二十六日（木） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次ページの電話番号もしくはメールにてお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しく下さい。のちほどこちらからご連絡いたします。



(連載まんが)

大吉うさぎ ～神社豆知識 その19～ くま こまち 作



〈お問い合わせ・お申し込み〉

携帯

eメール

〇八〇一一九八七七八七二六

daikokujinja@gmail.com

次号発行予定
「だいきく通信第五十九号」、いかがでしたか。次号「冬の号」
は、令和六年十二月二十六日甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第五十九号 令和六年十月二十七日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇一〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一

<http://www.daikokujinja.org>